

時間学公開講座「時間学への招待」第2回

社会の時間②

大正・昭和初期における時間規律の侵透

右田裕規

社会学での時間研究：

現代社会の人びとの時間意識・時間行動の特徴について研究を行う

↳とりわけ重視されている特徴：「時計時間」「時間規律」

今回：日本社会での時間規律の拡がりを概観

「時計時間」、「時間規律」について

1. 「時計時間」

時間を均等な長さで区切った上で
(60秒・60分・24時間・・・)、時
間を数字で知覚・表現する仕方

2. 「時間規律」

時計時間に従って行動すること。も
しくは時計時間に従い行動するよう
(成長過程の中で) 訓練されること。

日本社会での時間規律の起源：

20世紀初期（大正・昭和初期）の都市の人びとの間で、先駆的に広まる。

背景：時計時間に従って行動するよう、人びとを訓練する施設が整備されたこと

＝その代表的施設：会社、工場、学校、鉄道

学校、会社、工場、鉄道

- ・ どの施設も、明治のはじめ（1870年代から80年代）に登場

→大正・昭和初期には、都市住民の大多数が日常的にかかわりあうようになる。

- ・ いずれも時計時間に従った行動を人びとに強く要求する施設（就業規則、時間割、ダイヤグラム）。どの施設も大勢の人間を効率よくコントロールする必要

小学3・4年の時間割表(1896年。岩手県)

第三節

土	金	木	水
習	修	讀習 作	修
	体		体
甲		丙乙甲	
算	算	裁体	算
甲乙		甲乙丙 男男女女	
讀作	讀習 作	算	讀習 作
丙甲乙	丙乙甲		丙乙甲
修	作	讀作	習讀
	甲乙	丙甲乙	乙甲
	習讀	習讀	裁
	乙甲	乙甲	男女

トコルヌ關ニ授

火	月	日	時
修	修	至第七時十五分	自第七時
体	体	至第八時	自第七時三十分
讀習 作	讀作	至第九時	自第八時十分
算	算	至第十時	自第九時十分
讀作	讀習 作	至第十一時	自第十時十分
習讀	習讀	至正午	自第十一時十分

ハ、第一學期下半期時間割表。

午

前

午

後

新橋-横浜間開通3年目の時刻表(1875年)

下		上											
		表 刺 時 車											
八時十五分	午前七時	從新橋	到品川	從品川	到川崎	從川崎	到鶴見	從鶴見	到川崎	從川崎	到品川	從品川	到橫濱
八時二十二分	七時七分												
八時二十四分	七時九分												
八時四十五分	七時三十分												
八時四十七分	七時三十二分												
八時五十五分	七時四十分												
八時五十七分	七時四十二分												
九時	七時五十												
九時六分	七時五十六分												
九時七分	七時五十七分												
九時十三分	七時五十三分												

○、鐵道列車發着時刻表

全上

午前七時	從橫濱	到金川
七時五分	從金川	到鶴見
七時七分	從鶴見	到川崎
七時八分	從川崎	到品川
七時九分	從品川	到新橋
七時十一分	從新橋	到品川
七時十二分	從品川	到川崎
七時十三分	從川崎	到鶴見
七時十四分	從鶴見	到金川
七時十五分	從金川	到橫濱



大正・昭和初期の都市市民：

子どもの頃から、日常の様々な場面で時計時間に従いながら生活⇒時計時間に従って行動することを自ら好むようになる（時間規律を身に着ける）。

代表格＝郊外に住むサラリーマン（の子弟）：
会社（学校）の就業時間に加え、通勤・通学のため鉄道ダイヤにも毎日従う必要（二重に時間教育を受ける格好）。

＝時計時間に過剰に従属・依存した行動様式を身に着ける。

当時のサラリーマン層に見られる時計時間への依存度の高さ

①携帯用時計の所有率（内閣統計局編・発行、1933、『昭和五年国富調査報告』）

1932(昭和7)年12月末現在の時計の1世帯あたり所有個数(全国)				
	農業世帯	商工業世帯	サラリーマン世帯	東京のサラリーマン世帯
柱、置時計	1.3	1.9	2.2	2.6
腕、懐中時計	1.1	2.0	2.6	3.1
内閣統計局の国富調査(1933)				

→他の職種と比較して、時刻を配慮する頻度の多さのあらわれ

②盛り場での飲酒時の定時行動

讀賣新聞社による新宿ターミナルの終電車の泥酔者調査（1941年5月実施。『讀賣新聞』1941年5月17日付）

- ・最終電車の利用客（平均350人）の90%は「酒気を帯びた」状態。
- ・利用客の77.1%は「会社員」（郊外に住むサラリーマン）。

→終電の時刻を気にしながら終業後の自由時間を過ごす習慣、泥酔状態でも無意識的に駅に向かう習慣の定着（翌日の始業時刻への配慮）